台湾語の副助詞

范　傑

Ⅰ．はじめに

1．調査地対象：東アジアに属する台湾島は、台湾海峡を隔てて、広大な中国大陸を望み、東に太平洋を面している。今から三、四百年の歴史を辿り、この海上の孤島は中国からの大陸移民文化を受けながら、さらに自分の特殊な島国海洋文化を発展させてきた。現在、台湾で使われている言語を大別すれば、中国語（北京語）、台湾語（閩南語）、客家語、高砂族語（原住民語）という四つの言語が取り上げられる。中国語は、１９４５年以後から現在に至るまで、中国国民党の強制的な言語政策の実施により、台湾の共通語として最も広く使用されている。その一方で、二番目によく使われ、漢族方言に属する台湾語は、漢民族の移民風潮が起きた同時に、即ち、日本人が台湾を領有する以前、既に台湾で使われるようになった。そして、５０年ほどの日本植民時代に入って、異民族の統治の下で、台湾語を話すことは民族意識的な反抗だと視されると共に、台湾人意識が生まれた。こういう状況の下でも、音声言語としての台湾語は衰退することもなく、同時に多量の日本語語彙が台湾語に溶け込んだ。

第二次世界大戦に戦敗して、日本人は台湾を撤退した。その後、国民党政権が台湾を支配するようになった以来、日本語どころか、台湾語も日本帝国主義の「残毒」と認められ、厳しく抑圧された。皮肉なことは、同じ漢民族の統治の下で、台湾人はこういう差別な言語政策に反抗することもなく、さらにすすんで自発的にに中国語を勉強し始めた。

現在、こういう状況の下で、台湾語は下品な言語だと視されながら、急激に衰退しつつある。若い人をはじめ、台湾語をだんだん話せなくなる者が増加した。五十年以上も経った今では、台北の町では、台湾語を流暢に話せる若い人は稀である。近来、台湾人意識が高まることに伴い、台湾語を守ろうとする動きがしばしばある。だが、まだまだ文字が定着していない台湾語は、今後、如何に音声言語より書面言葉に転換するかというのは台湾人の言語学者達が当面する共通の難しい問題となっている。

本稿では、仮に「漢羅表記」（漢字＋羅馬『ローマ』表記）という表記法により、日本語の副助詞を中心として、台湾語に訳することにする。

2．調査年月日：１９９８年5月～１９９８年7月

3．話者：范　傑（ハン ケツ）　　話者の言語経験にふれておく。

話者は１９６９年に、台湾台北に中国人とて生まれた。小学校から大学まで、学校で中国語の授業を受けた。しかしながら、自宅では、台湾語によって父母と日常会話の疎通を行う。その一方、話者の父親は日本植民地の統治の下で日本人として生まれ、１９４５年の日本の敗戦で中華民国台湾省の中国人になった。父親は中学校二年生まで、学校で日本語教育を受け、家に帰ると、台湾語によって祖父母と台湾語を話していたと言う。即ち、台湾語は話者と両親、両親と祖父母、三世代の共通の言語である。

話者は高校を卒業するまで、家庭以外の場所では、ほとんど台湾語を使わなかった。しがしながら、台湾台南にある成功大学に入学し、そこで日本語と出会う同時に、台湾語をも再認識するようになった。台北とまったく違う生活言語を行う台南に着いた途端、台湾語が主な疎通手段ということに気がついた。台南の町に行けば、台湾語で買い物したりすると、順調に進めるし、店員の愛想もよかった。台湾で日本語の共通語を勉強し、大阪に着き、違う大阪弁を使うことはある意味では、

同じ心境だと言える。台南での四年間、なるべく台湾語を使いたかった。

日本語と出会うということは、大学歴史学科には、台湾史の研究をするために、日本植民時代の歴史は語れなければならないという大学側の判断があり、日本語で書かれた大量な文献を学生に読ませるために、１２単位の日本語講座も開かれる。、話者は日本語を学び出した。そして、台湾語の中に大量の日本語語彙が浸透していることに気がつき始めた。また、それと共に、日本と台湾との切りきれない歴史関係をも一層感じ始めた。

現在、外国人の留学生の研究生として、大阪教育大学の国語教育学の井上博文先生のご指導をいただき、日常生活言語を対象に、日本語と台湾語との対照的研究を行っている。

4．調査者：范　傑（ハン ケツ）

5．調査方法：まず、調査票にそいながら、若年層（２８歳）の台湾語の話し手である調査者が内省を行った。日本語の副助詞の枠組みに基づく調査票のために、当然ながら枠組みから逸脱したり、相当する表現が見あたらなかったりした。したがって、特有の場面を想定しなければならなかったこともあった。

6．表記方法：長い間で、話者は中国語の教育を受け、志向や判断力が中国語に基づいているので、中国語の訳文も合わせた。しかしながら、現在台湾で使われている中国語は、中国の中国語とは、発音の方や、語彙や、文法などから見ると、色々相違点が取り上げられるので、区別するために、訳文の冒頭に「(台湾華語)」で表記した。

そして、台湾語の部分は、仮に「漢羅表記」(漢字羅馬『ローマ』字）という表記法で表記した。

Ⅱ．調査結果

（1）添加・例示・提題などをあらわすもの

A．添加《さえ・も》

1．雨だけでなく風さえ吹いてきた。

（台湾語）　不但下雨、閣起風。

（台湾華語）不但下雨、還吹起風来了。

2．今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。

（台湾語）　今年好年冬、不 kan－na（僅単）是米、(連）麥子的収成也真好。

（台湾華語）今年大豊収、不僅僅是米、麥子収成也好。

B．予想外の事実《さえ・だけ》

3．小学生でさえ簡単にワープロを使っている。

（台湾語）　連国校的学生仔都軽軽鬆鬆 ti - leh 使用「文書処理機」。

（台湾華語）連小学生都軽軽鬆鬆地在使用「文書処理機」。

＊台湾では、ほとんどコンピューターを使っています。

ワープロに相当するものはありません。

「文書処理機」は「word processor」の訳文。

4．（宝くじが）当たると思っていなかっただけにうれしい。

(台湾語)　就是因為無想到講會得奨、所以閣 ka（卡）歓喜。

(台湾華語)正因為没有想到會中奨、所以才更加高興。

C．条件《さえ》

5．暇さえあれば釣りに行っている。
(台湾語)　有閒就去釣魚仔。
(台湾華語)一有時間就去釣魚。

D．例示《でも、ほど、まで、など、やら、なり、なんて》
6．またお茶でも飲んで下さい。
(台湾語)　閣喝淡薄（一寡）啊 茶 啦。
(台湾華語)請再用点茶。

7．みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。
(台湾語)　用「饅頭」来作伴手好嘸?
(台湾華語)用「饅頭」之類的東西来送禮如何 呢？

8．思わず跳びあがるほどうれしかった。
(台湾語)　歓喜甲跳起来。
(台湾華語)高興到不由地跳了起来。

9．まさかあなたにまで話しが行くと思わなかった。
(台湾語)　想 𣍐到講話會傳到汝彼邊去。
(台湾華語)没想到話會傳到 你那裏去。

１０．　なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。
(台湾語)　手来脚来乱斬。
(台湾華語)拳打脚 踢地乱打一頓。

１１．　私になり相談してくれば良かったのに。
(台湾語)　尚無 ma 及我参詳一下。
(台湾華語)至少也和我商量一下　。

１２．　野菜なんていくらでもできる。
(台湾語)　若是青菜看ｂｅｈ（欲）愛ｇｏａ済（多)、攏有法度。
(台湾華語)蔬菜要多少都有 辦法（生産)。

一対の語の例示《だって》
１３．　しょうゆだってみそだって作っていたんだ。
(台湾語)　豆油 啦、miso啦攏家己作。
(台湾華語)醤油 啦味噌 啦都自己作。
＊台湾人は「味噌」という漢字を見ながら、日本語発音で miso を発音する。

択一《なり》
１４．　私なり弟なりがお手伝いに行きます。
(台湾語)　我抑是阮小弟看誰人来去湊脚手。
(台湾華語)我或是我弟弟去幫忙。

例外でない《とて》
１５．　村長とて、そうするより仕方なかったんだろう。

(台湾語)　就算講是村長、除了按呢作、也無別款的方法　。
(台湾華語)就算是村長、除了這樣作、也没有其他的方法。

列挙《も》
１６．　春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。
(台湾語)　春天一到、梅花及櫻花作陣開。
(台湾華語) 春天一到、梅花和櫻花同時開

同類の暗示《も》
１７．　テレビもそろそろ買い換えよう。
(台湾語)　電視也差不多會使換了　。
(台湾華語)電視也差不多該換了　。

やわらげ《でも》
１８．　まあお茶でも飲んで下さい。
(台湾語)　閣喝淡薄 啊茶 啦。
(台湾華語)請再用点茶。

E．包括《など》
１９．　盆には子や孫などが帰ってくる。
(台湾語)　中元的時陣、子孫大家 攏會転来。
(台湾華語)中元節的時候、児孫們都會回来。

F．提題《だって》
２０．　ゲートボールだってできるよ。
(台湾語)　槌球也會曉。
(台湾華語) 槌球也會。
＊中国では、「ゲートボール」を「門球」と言います。

話題に上げる《って》
２１．　何だい、いいことって。
(台湾語)　有啥物好代誌？
(台湾華語)什麽、好事情？

極端なものの提示《でも、くらい、すら、も》
２２．　そんなこと子供にでもできるよ。
(台湾語)　彼款代誌、連囝仔 ｍａ會曉。
(台湾華語)那種事、連小孩子也會。

２３．　食べることくらいはなんとかしたい。
(台湾語)　吃的問題、閣卡講也得愛想 辦法来解決。
(台湾華語) 吃的問題、総得要想辦法解決

２４．　名前すらろくに覚えていない。
(台湾語)　連名字ｍａ記 獪好。
(台湾華語)連名字都記不好。

２５．　弁当代に千円もかかった。
(台湾語)　kan－na（僅単）便當銭就開千外圏。
(台湾華語)光便當銭就花了一千円。

２６．　これさえあればもう大丈夫だ。
(台湾語)　只要有這就無問題
(台湾華語)只要有這個就没問題了。

（２）　分量・程度・基準などをあらわすもの
G．分量・程度《ほど、くらい。ばかり》
２７．　旅行で三日ほど家をあけた。
(台湾語)　因為要来去遊覧、三天左右不ｔｉ(在)厝。
(台湾華語)因為要去旅行、三天左右不在家。

２８．　茶碗に半分くらいください。
(台湾語)　（麻煩）閣甲我添半碗。
(台湾華語) 請給我添半碗左右。

２９．　子供にでも分かるくらいのやさしい本だ。
(台湾語)　対囝仔来講算是好讀的書。
(台湾華語) 対小孩子来説都還算是容易讀的書。

３０．　一週間ばかり留守にするので頼むよ。
(台湾語)　歸禮拜無ti（在）、愛麻煩汝。
(台湾華語) 一整個星期不在、麻煩 你了。

H．基準《ほど》
３１．　今年の寒さは去年ほどではない。
(台湾語)　今年不親像去年許 呢(hiah－nih）寒。
(台湾華語) 今年不像去年那様冷。

I．理由《ばかり》
３２．　ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。
(台湾語)　不過是一時大意、就 𣍐收尾。　。
(台湾華語) 只是稍微没有注意、就不可收拾了。

Ｊ．「それにふさわしく」《だけ》
３３．　苦労しただけあって人間ができている。
(台湾語)　就是因為吃過苦、才（chiah）有法度成人。
(台湾華語)正因為吃過苦、才能獨当一面。

形式名詞的用法《なんか》
３４．　毎日孫の守りやなんかで忙しい。
(台湾語)　歸日帯囝仔有的無的、無閒甲（欲死）。
(台湾華語)毎天帯小孩、忙得要命。

「それこそ」《こそ》

３５．　それこそバケツをひっくり返したような大雨だ。
(台湾語)　這才（chiah）是正港的落大雨。
(台湾華語)這才是傾盆大雨。

「ばかりか」《ばかり》

３６．　父ばかりか母もスポーツ好きだ。
(台湾語)　不僅単是老伯、老母 ma 假意運動
(台湾華語)何只是父親、母親也喜歓運動。

K．今にも行われる。《ばかり》

３７．　もう食べるばかりにしてある。
(台湾語)　會使吃（飯）啊。
(台湾華語) 可以吃了。

動作の直後《ばかり》

３８．　今、仕事から帰ったばかりだ。
(台湾語)　tou－tou 啊下班轉来。
(台湾華語)剛剛下班回来。

基準《まで》

３９．　駅までもうちょっとだ。
(台湾語)　閣一時 啊 就到車頭。
(台湾華語)在一下子、就到車 站了。

L．等量の反復《ずつ》

４０．　一人ずつ呼んで話しをした。
(台湾語)　一個一個叫来講話。
(台湾華語) 一個一個叫来説話。

M．等量の配分

４１．　一人に二個ずつみかんをやる。
(台湾語)　毎一個人分二粒柑仔。
(台湾華語) 毎一個人給二個蜜柑。

（3）限定・限界などをあらわすもの

N．限定《しか、だけ、ばかり、きり》

４２．　酒はたまにしか飲まない。
(台湾語)　酒、三不五時喝単薄（一寡）。
(台湾華語)酒、偶爾喝一喝罷了。

４３．　今朝は寝坊をしてパンだけ食べてきた。
(台湾語)　早起 [illegible]過頭、kan-na 吃 pan 就来　。
(台湾華語)早上睡過頭了、只吃了麪包就来了。
＊台湾人は「麪包」という漢字を見ながら、日本語発音で pan を発音する。

４４．　そんな勉強ばかりしていると体に毒よ。
(台湾語)　冊読甲按 呢(an-ne)、身体會打壊。
(台湾華語)讀書讀到那樣子、會弄壊身子的。

４５．　うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。《田植えのこと》
(台湾語)　kan－na（僅単）剰 咱們的田猶未収成、別人的田攏 割了　。
(台湾華語)只剰下我們家的田還没収成、其他人的都収割完了。

O．　強調《しか・こそ》
４６．　もうこれだけしかないよ。
(台湾語)　kan－na（僅単）剰這而已。
(台湾華語)只有這些而己。

４７．　今年こそいい年にしたい。
(台湾語)　未来的一年一定愛好好拍 拼。
(台湾華語)一定要好好地努力来迎接未来的一年、

P．限界《だけ、まで》
４８．　これだけ言っても分からないのか！
(台湾語)　kan－na（僅単）講按 呢干就無法度了解。
(台湾華語)難道只説這様就無法了解　。

４９．　二千円くらいまでなら何とかなる。
(台湾語)　二千圏左右閣會使想 辦法。
(台湾華語)二千円左右還可以接受。

（４）陳述的なもの
Q．「～ば～だけ」
５０．　肥料をやればやるだけ良く育つ。
(台湾語)　肥澆越多、生越好。
(台湾華語)肥（料）施得越多、（生）長得越好。

「仮定形・ば・こそ」《こそ》
５１．　心配すればこそ言うんだ。
(台湾語)　就是因為関心、才欲講。
(台湾華語) 就是因為関心、才要説。

「こそ・仮定形」《こそ》
５２．　彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。
(台湾語)　伊講別人會曉、攏吓聴別人講。
(台湾華語)　他只會抱怨這個那個、都不聴別人的話。

５３．　「～でこそあれ《コサレなども》」という言い方はありますか。
(台湾語)　Gam 有「才」這款講法？
(台湾華語)有「才」這種説法 嗎？

「未然形・ば・こそ」《こそ》
５４．　押しても引いても動かばこそ。
(台湾語)　吓管是用推的、抑是用拉的 攏 ding 動。
(台湾華語)不管是用推的、或是用拉的都無法動弾。

「 ～こそ。」 《こそ》
５５．　失礼なことを言わないでこそ。
(台湾語)　無説失礼的話、才（是）…
(台湾華語)不説失礼的話、才（是）…

「 ～こそ～が。」 《こそ》
５６．　今でこそ家から出ないが、昔よく出歩いていた。
(台湾語)　近来才無出門、較早常常出去（ 迫迫)。
(台湾華語) 最近才少出門、以前常常出去（玩)。

「 ～ば～ほど」《ほど》

５７．　働けば働くほどもうかる。
(台湾語)　做越多、賺越多。
(台湾華語)做得越多、賺得越多。

R．打ち消しとの呼応《まで》
５８．　村長に聞くまでもないことだ。
(台湾語)　這種代誌没必要問甲村長 hia 去。
(台湾華語)這種事情没有必要問到村長那裏去。

否定との呼応（それさえもない）《も》
５９．　朝から忙しく昼ご飯も食えない。
(台湾語)　自透早開始無閒到連中 dao 頓 ma 無法度食。
(台湾華語)從早上開始忙、忙到（連）午飯都没時間吃。

否定的取り上げ
６０．　こんなものなどいくらでもあるよ。
(台湾語)　這款物件、看欲愛 gao 済、就有 gao 済。
(台湾華語)這種東西、要多少有多少。

全面否定《だって》
６１．　誰だってそんな事を言われたら怒るよ。
(台湾語)　不論誰人、ho（予）人按 呢説、攏 會 艙爽快。
(台湾華語)不論是誰、被人家那様説都會生気的。

S．次の動作が不可能《きり》
６２．　十年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。
(台湾語)　十年前離開故郷了後、一遍也 吓捌転来。
(台湾華語)十年前離開故郷後、一次也没有回来過。

（5）モダリティー的なもの

T．不確かな気持ち《やら・か》

６３．　いつの間にやら眠ってしまった。

(台湾語)　不知影東時 [illegible]去。

(台湾華語)不知道什麼時候睡着了。

６４．　何のことか分からない。

(台湾語)　不知影是 啥物代誌。

(台湾華語)不知道是什麼事情。

推定《か》

６５．　後で遊びに行くかもしれない。

(台湾語)　等一下、會去 迫迫 ma 不一定。

(台湾華語)說不定等一下去玩。

どちらかわからない《やら》

６６．　来るのやらこないのやらよく分からない。

(台湾語)　欲来抑是 [illegible]来無清楚。

(台湾華語)不太清楚要来還是不来。

はっきり言わない《やら》

６７．　どこやらへ引っ越したそうだ。

(台湾語)　聽講不知影搬去 逗位。

(台湾華語)聽人家說搬走了、不知道搬到 哪裏（去）了。

U．非難《たら・てば》

６８．　お父さんたら今日も遅いのね。

(台湾語)　老伯、今仔日猶閣遅到。

(台湾華語) 爸 、今天也遅到。

６９．　お父さんてば、子供のようなことを言って。

(台湾語)　老伯、講彼款 [illegible]仔話。

(台湾華語) 爸 、說那小孩子話。

Ⅲ．総括（まとめ）

（一）今度の内省した作業を行いながら、台湾語の表現についての気付きを簡略に述べる。

（1）単語そのものの声調より、副助詞の役割を働く。例文２８．を取上げてみる。

２８．茶碗に半分くらいください。

(台湾語)　（麻煩）閣甲我添半碗。

(台湾華語) 請給我添半碗左右。

台湾語には日本語の「くらい」、「ほど」に当たる言い方は「左右」だ。だが、この文は、「半碗」の声調の変化が「左右」に取って代わって、「分量」の意味を表現しながら、「依頼（ください）」の役割も同時に働ける。即ち、「半碗」のもとの発音を「軽聲」に変換すれば、「左右」を訳さなくても、「くらい」、「ください」などの意味が表わせる。

（2）台湾語の副助詞は日本語の副助詞の一つの単語に対して、「前後パタン」の形で使

われるのが多いようだ。例文３．を取上げてみる。

３．　小学生でさえ簡単にワープロを使っている。

（台湾語）連国校的学生子仔都軽軽鬆鬆 ti - leh 使用「文書処理機」。

（他に例文 4.15.22.24.25.32.33.36.46.59 などを参照）

（３）今度の台湾語の訳文の中に、適当な漢字が簡単に見つからない単語（ローマ字で表記したのもある）、もしくは、コンピューターで容易に入力できない単語はたまたま副助詞である。例文２４を取上げてみる。

２４．　名前すらろくに覚えていない。

(台湾語)　連名字ｍａ記 𠱁好。

(台湾華語)連名字都記不好。

（他に例文 2.4.13.19.22.24.25.33.36.38.43.46.48.52.などを参照）

副助詞の主な役割の一つとしては、「強調」が取り上げられる。物事を強調するたびに、話してがその場で自分の気持ちなどをそのまま表しやすい。言葉を深く考えないうちに言い出すのもしばしばあるだろう。そして、多様の「副助詞の表現」が各年齢層、地域別に生まれると思う。さらに、該当する言語の文字が定着していない場合、書き方は紛らわしい。こういう状況下で、適当な漢字が容易に決められないかもしれない。

（４）台湾語の副助詞の表現の中に、「講」（日本語に直訳すると「話す」になる。）と「看」（日本語に直訳すると「見る」になる。）が頻繁に使われる。例文４．と１４．を取上げてみる。（他にも例文９．１２．１５．２３．２９．６０を参照）

４．（宝くじが）当たると思っていなかっただけにうれしい。

(台湾語)　就是因為無想到講會得奨、所以閣 ka（卡）歓喜。

１４．　私なり弟なりがお手伝いに行きます。

(台湾語)　我抑是阮小弟看誰人来去湊脚手。

この二つの日本語の例文の中に、「話す」とか「見る」の意味がないが、台湾語に訳すると、「講」と「看」という訳語が出てくる。「講」「看」をいれることで台湾語らしくなる。

（二）本稿の調査結果は話者の自分自身の言語を内省したものである。臨地調査を行う代わりに、若年層のインフォーマントの一人として、日本語の副助詞の表現を台湾語に訳した。日本語の副助詞の枠組みに基づく調査表に沿いながら、台湾語を内省したため、台湾語の「副助詞の表現」がそんなに厳密ではないかと思うかもしれない。しかしながら、この私にとって初体験の作業には、自分の母語としての台湾語や日本語の学力の不足を含んでいると考えなければならない。

それに、台湾語を文字で表記しようと思って初めて、その難しさが強く感じる。漢字を使うか、ローマ字を使うかに迷うし、表現しきれない場合もたくさんある。しかしながら、こういう形で、自分の母語を再認識しながら、日本語で紹介できるうれしさがある。

なお、日本語で考えてきたこの調査では、井上博文先生の懇切な助けを得た。記して感謝を申し上げる。